



葦

社会福祉法人 愛徳福祉会
大阪発達総合療育センター
Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

大阪発達総合療育センター機関紙
第38号 2020年 秋

INDEX	
・特集に寄せて ……………1P	・大阪市受託「重症心身障がい児者 地域生活支援センター事業」の紹介 ……………5P
・梶浦先生50年間 ありがとうございました ……2P	・内定式……………6P
・法人創立50周年記念 「愛徳福祉会の歴史を振り返る」3P	・職員研修実績状況……………6P
・リモート保育・リレーエッセイ ……4P	・寄付金と寄付物品……………6P

特集に寄せて

社会福祉法人 愛徳福祉会
理事長

鈴木 恒彦



今年、設立50周年記念の年で、盛り沢山の記念式典が計画されていましたが、コロナ禍のため全てが次年度に延期され、葦の発行も遅れて年末になってしまいました。今回は、創立以来、職員の星として50年輝き続けてきた梶浦前理事長の退任式を中心に、法人の歴史、港分園でのリモート保育、大阪市から受託の医療的ケア研修等の内容がびっしりと載せられています。リレーエッセイの療育部田坂氏の驚きのイベントにはほっこりさせられます。いずれも、職員がいつも創意工夫してこれまでの物事に対応してきた歴史の一端を垣間見るように思えます。これからもかわらず、皆で心一つにしてコロナ感染症を乗り越えて、希望の新年を迎えたいものです。

特集に寄せて

大阪発達総合療育センター
センター長

船戸 正久



今回、50周年記念に寄せて法人の歴史について4回連続で掲載される予定です。梶浦一郎前理事長の法人への熱い思いとその土台を知ることができますので、是非ご熟読下さい。現在当センターは、大阪市から3つの事業を委託されています。一つは今回紹介しました医療的ケア研修事業（基礎研修・応用研修）で、前年度から応用研修は、相談支援員の報酬加算もつく「医療的ケア児等コーディネータ養成研修」として位置付けられています。もう一つは、医療コーディネータ事業で、登録者の方々への「急病対応相談」、および「かかりつけ医紹介」の事業です。また分園では以前紹介しました発達障がい児専門療育事業「うきうき」を引き続き行っています。今後これらの事業の経過も紹介できましたら幸いです。



梶浦先生50年間ありがとうございました

2020.10.9 当センター5階ホールにて

7月に理事長を退任されました梶浦先生にお越しいただき、講話とセレモニーを執り行いました。梶浦名誉理事長、鈴木理事長の講話と、船戸センター長、川端院長にご挨拶いただき、来賓として、愛徳姉妹会より榎山シスターと山五町会の坂本敏和会長(当法人評議員)にそれぞれご挨拶いただきました。法人設立当初の苦労話や思い出話、これからの法人の展望などが語られ、最後は記念品贈呈と記念撮影を行いました。



2020年5月1日聖母整肢園が創立されて50周年を迎えました。これから数号に亘り法人設立から現在に至るまでの歴史を振り返ると共にこれからの法人運営に繋がりたいと思います。第一回は聖母整肢園設立からあさしお園・ゆうなぎ園設立までのお話です。



◆きっかけ

フランスに本部を置く宗教法人聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会のシスターが、1933年日本での奉仕活動を目的として来日。山坂5丁目に拠点を置いたことが始まりでした。当初、釜ヶ崎に「聖心セツルメント」を開設。そこでは炊き出しや日用品配給等、貧困層への奉仕活動や、無料診療所、児童保育にも力を入れていました。その後、1940年5月に医療での支援を充実させる為、聖母病院を現在の大阪発達総合療育センターがある場所に建設。第2次世界大戦の厳しい時期も乗り越え、1954年には当時日本において死亡率第一位として猛威を振った結核患者を受け入れる結核病棟を増設するなど、地域病院としての役割を担ってきました。1967年に結核患者の減少に伴い、役割を終えたということで、聖母病院は34年の歴史に幕を下ろしました。その後大阪市から肢体不自由児施設建設の依頼がありました。当時大阪市では親の会を中心とした施設建設の要望が強く、委託先を探していたようです。一方大阪大学医学部において、「脳性麻痺研究会」を立ち上げ、脳性麻痺のある児童への医療の在り方を模索していたのが梶浦一郎医師・井上明夫医師でした。当時梶浦・井上両医師が抱えていた脳性麻痺児に対する医療・福祉サービスへの疑問は①脳性麻痺のある児童に対する医療は殆どなされていないのはなぜか。②現存の肢体不自由児施設は、なぜ親元を離れ、数年以上に家に帰れず、ずっと施設に留まらなければならないのか？ということでした。ある時、梶浦医師の耳にも愛徳姉妹会が大阪市で肢体不自由児施設を作るという話が入り直ぐに興味を持たれました。またその頃偶々梶浦医師の外来患者であった姉妹会のシスターを介し、聖母修道院長のシスター村山（後の事務長を経て理事長）との顔合わせが実現しました。

そこでは梶浦医師らが当時取り組まれていた脳性麻痺早期発見システムや、ボバース法によるリハビリの実施が脳性麻痺児に対して有効であり、積極的な医療を提供出来るということをシスター村山に説明をし、シスター村山も梶浦医師の肢体不自由児療育に対する熱意を感じました。その後管区長シスターメリーモラン（愛徳姉妹会理事長）、副管区長シスターバプチスタカスバに梶浦医師を引き合わせ、話し合いの結果、大阪市の要請を受け入れ愛徳姉妹会聖母整肢園を設立し初代園長として梶浦医師が就任することが決まりました。1969年春ごろから発足された準備委員のメンバーが仕事の終わった19時以降に集まり、建物の図面や、人員の確保・就業規則等運営に関する全ての事項を決めていきました。そして1970年3月末に第一期工事が終了。1970年5月1日に定員50名の設置が大阪市より認可され、一部病棟からオープンし受け入れを開始しました。その後増築を進めて1971年4月1日には重度病棟定員40名の認可を

受け、合計134名の定員となりました。

1970年開園当時の職員数はわずか39名。人員確保の面では、かなり苦勞がありました。

◆愛徳姉妹会聖母整肢園 運営理念

また発足当時梶浦・井上両医師によって作られた聖母整肢園の運営理念は次の通りです。

1. 障がい児の隔離主義は排除する
 2. 保健所と協力して脳性麻痺の早期発見に努める
 3. 作られた重症児を防止するため超早期治療をおしすすめる
 4. 外来通園児を出来るだけ多くする
 5. 施設部門と病院部門を作る
 6. 身体障がいを持った精神障がい者を拒否しない
 7. 障がい児の歯科治療を行う
 8. 脳性麻痺を整形外科医だけで解決しようとししない
 9. 他の施設と職員の交流をはかる
 10. 訓練は全てMan to man systemだけで行う
 11. 脳性麻痺児の機能訓練にはボバース法を全面的に採用する
 12. 社会的緊急度も考慮する
 13. 肢体不自由児を持つ母親が出産する場合子どもの入園に便宜を図る
- 誌面の都合上詳細な説明は割愛しますが、いずれの項目も現在のセンター運営の根幹を成す考え方であり、今日の障がい児者支援の原理原則であるといえます。

◆法人運営の転機

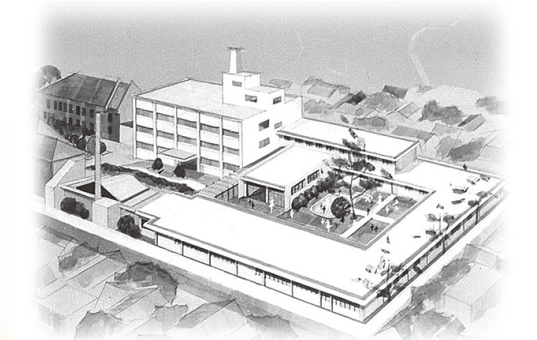
一方法人運営は思うようには行かず、慢性的な赤字に悩まされたり、職員への賞与の運配が起きたりと決して順調な発展とは言えませんでした。そんな聖母整肢園に大きな変化をもたらされた出来事がありました。

それは1974年にNHKより放映されたドキュメンタリー番組「あすへの記録『ひとり歩きをめざして』 ～脳性マヒの早期治療」で聖母整肢園が取り上げられたことでした。全国ネットのテレビということで反響は想像を大きく上回るもので、放送を境に電話での問い合わせが全国から寄せられるなど、世間から注目される存在となりました。

また就職を希望する学生もテレビを観て集まるようになり、職員の確保も徐々にではありますが、出来るようになりました。

そして更に4年後の1978年11月には大阪市からの要請により港区夕風に肢体不自由児と難聴児の通園施設「あさしお園・ゆうなぎ園」を設立。2つの拠点で益々医療と福祉で障がい児支援を拡充させていきました。

(次号へ続く)



リモート保育

あさしお園 三好 愛恵 出口 奈和
ゆうなぎ園 森貞 更加代

緊急事態宣言を受け、4月20日から5月8日までは登園を自粛していただき、あさしお園・ゆうなぎ園ともに通所以外による支援を行いました。

保育では、1つ目は全通園児が登録している連絡メールを利用し、リモート支援を開始しました。通園児限定のYouTubeでの保育配信は、保育からの一方通行ですが何時でも再生できることで多岐に活用できたという反響があり、リクエストが届くようにもなりました。2つ目は、リモート保育の実施、こちらは対面式の保育なので、子供たちの反応を確認しながら楽しい時間を共有することができました。3つ目は家族支援として、電話で直接お話しすることや、家庭訪問にて、自宅に入らず、距離を保ち近況を確認し、教材を手渡すことができました。発達障がい児専門療育うきうきでも、課題の送付とリモートでの振り返り、保護者研修会の講義内容の配信を行いました。



リハビリでは、リモート保育の時間を共有して、体や手足の動かし方、姿勢設定などを、映像を通して伝達しました。また椅子やプロンボードなど実際使用している自宅の様子を映してもらい、サイズ調整や、適切な座らせ方、立たせ方のアドバイスを行いました。また、YouTube配信も行いました。テーマは「手や足の動かし方」「トイレ・お着がえ」「遊び」「お口のマッサージ」など、動画でも理解しやすく、おうちでもすぐに取り組みそうな内容を選択しました。リハビリによるリモート支援や配信は一定の期間で終了してはいますが、子どもたちやご家族が、おうちにいるときに何に困りどのような助言を必要としているかを知る大事な機会となりました。

ゆうなぎ園では、家での取り組みの提案、育児や就学相談など1時間近くになる事もありました。併せて支援動画の配信を開始。その後Skypeでの双方向の支援を開始。職員が指さすカレンダーを見ながら数かぞえ。「……29、30！」言えた！と画面を挟んでハイタッチをする職員とお子さん、微笑ましい場面でした。

リモート支援には多くの制限がありますが、スマートフォンの普及で子供たちは、幼い頃より動画になじみを持っていたことが、いち早く浸透した一因だと感じています。保護者に教材の準備をあらかじめお願いする等工夫を重ねました。結果的に、慣れるまでに時間のかかるおさんが久しぶりの通園時にスムーズに支援に戻れた事は、嬉しく大きな成果の一つだと実感しています。自粛生活の中で孤立することなく、社会と繋がっているという安心感を持ってたと話してくれた保護者の方も多くありました。今回の経験は支援の中身や保護者支援を見直す貴重な機会になったと感じています。



療育部 ふたば 保育士
(介護福祉士・HPS)

田坂 なお子

葦をご覧のみなさんこんにちは！

ところで、私の事知ってます？自分で言うのも何ですが、私、センターの中でちょっとした有名人なんですよ。ふふふ……。えっ！？知らないですか？？あれですよ！あの国民的番組に出演したんですよ。そうそうあの有名な、『新婚さんいらっしゃい！』ジャジャーン！すごいでしょ？書類選考からからはじまり、数々のオーディションをこなして、出演を勝ち取ったのです！収録当日は桂文枝（当時は三枝さん）さんが

例の椅子コケをたくさんしてくれました。そして、最後のゲームではリハーサルで海外旅行をゲットしましたが、本番では見事に『たわし』をゲットしました。かれこれあれから7年ぐらいが経ちました。



そして、現在の私は9歳年下の若い旦那さんともうすぐ3歳になる可愛い娘と賑やかに楽しく暮らしましたとさ。めでたしめでたし。

今回は、リハビリテーション部PT 木村 智香さんです。お楽しみに！

大阪市受託「重症心身障がい児者地域生活支援センター事業」の紹介

運営局 次長 正内 俊雄



大阪市より受託している本センター事業は、主に通称「医療的ケア研修」と「コーディネーター養成研修」とで構成されています。

昨今の医療技術の進歩等を背景として、NICU等に長期入院したのち、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養といった医療的ケアが必要な障がい児者が増加しています。

こうした状況を踏まえ、医療的ケア児者が地域においても必要な支援を受けることが出来るように、上記研修を通じ医療的ケアを必要とする重症心身障がい児者に対する介護技術の向上を図ると共に、医療的ケアに関する専門的な指導、助言を行うのが目的です。

特に、医療的ケア児者の増加と長命化の観点より、昨年2019年度より、これまでの基礎研修に加え、より専門的なコーディネーター養成のための応用研修を実施し、専門的な知識と経験に基づき、各事業所において、医療的ケア児者の支援に関して、キーパーソンとしての役割を担う人材育成を行っております。

<地域生活支援センター事業の活動概要>

1) これまでの活動：

大阪市内全域の福祉サービス事業者（2020年現在約3,000事業所）、特に重症心身障がい児者や医療的ケアを必要とする地域の障がい児者を支える事業所のスタッフに医療・介護技術の研修を提供し、医療・福祉の広範囲かつ専門的な知識と理解を高めることを目的としてやってきました。

《基礎研修の概要》 ～7年前にスタート～

①2013年度～2018年度（3ヶ年契約×2）

*院内にて2日コースを年3回実施

各年度にて約120～130名の修了者を輩出しました。

（大阪市からの認定証 発行総数773名）

②2019年度～2020年度（2ヶ年契約）

従来の研修に加え、新たに「医療的ケア児者等コーディネーター養成研修」*が加わりました。

（*補：増加かつ長命化している医療的ケア児者等が、地域においても必要な支援を得られるようその活動を推進する専門相談支援員を育てる研修）

具体的には、過去6年間の基礎研修に加え、応用研修①（講義編2日間）と応用研修②（演習編2日間）を当センター内にて開催しています。

《応用研修の開始》

～昨年2019年度より基礎研修に加え新たにスタート～
2019年度の「基礎研修」受講者総数は123名で、「応用研修①」48名、「応用研修②」39名の修了者を出しております。

因みに、2020年度の受講者数は下記の通りです。（コロナ禍の影響もあり、例年より若干減少しています）

《基礎研修》 *今年の実績

第1回 9月15日（火） 37名

第2回 9月29日（火） 30名

第3回 10月13日（火） 30名

*受講者総数 97名

《応用研修① 講義編》 *今後の予定

11月7日（土）と8日（日） 51名

《応用研修② 演習編》

12月5日（土）と6日（日） 38名

2) 今年度、基礎研修を終えた受講生アンケートには、前向きなコメントが多くありました。下記にその一部を紹介します。

- 嚥下・てんかん・呼吸の基本が良く理解できました。利用者とそのご家族の大変さ、サービス利用の目的・目標設定を引き出すことに活かしたいです。
- 重度心身障がい児者の方を担当する機会はまだないのですが、事業所の先輩は担当しているので近いうちに自身も対応する可能性があると思います。知識を得たいと思い参加しました。

⇒ ご本人たちがどのような流れで一日を過ごされているのか、どのようなことを大切にケアをされているのかが知れたこと。

全身を使って感じようとされていて、そこをきちんと理解して安心感を持っていただけるケアをすることの大切さを学びました。

ほかにも、

- 実際に実技で体験するのが分かりやすく、相手の立場も考えやすくなるので、良かったです。利用者さんが安心安全で楽しく過ごせるように、自分がこの研修で学べた事を取り入れて活かしていきたい。
- 人間の体はすべてが連動・関連しており、専門職から学び知識を深めていく事の大切さを改めて感じました。そして、多職種連携の重要性。

内定式

10月1日に、令和3年4月入職予定の新入職員の
内定式を執り行いました。

当センター5階ホールにて、オリエンテーション
や親睦を深めるポッチャなどを行いました。



職員研修実施状況

令和2年7月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和2年7月2日(木) 17:40~18:40	感染管理委員会 教育研修部	感染管理対策研修 「標準予防策について」	JCHO大阪病院 副看護師長 感染管理認定看護師 小井里香氏	174名	5階ホール



大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力
誠にありがとうございます



一般寄付金

(R2.7 ~ R2.9)

月	寄付者 (敬称略)	
7月分	中村 昭代 様 7月分楽基金	本園
8月分	西野 俊一 様 8月分楽基金	
9月分	岡田 亜季 様 9月分楽基金	
		あさしお園 ゆうなぎ園

寄付物品

(R2.7 ~ R2.9)

	寄付者 (敬称略)	物品名
本園	7月分 佐川急便株式会社	災害用備蓄食品 多数
	匿名	歩行器他
	匿名	おもちゃ
	8月分 国際ソロプチミスト	エア遊具、電子キーボード
	匿名	おもちゃ
	9月分 匿名	マスク 多数
分園	匿名	おもちゃ
	匿名	書籍 (小児看護)
	匿名	本、マット、積み木
	匿名	足ふみ式消毒液スタンド
	ユニバーサルスタジオジャパン	USJキャラクターグッズ



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会

発行責任者・鈴木恒彦

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕凧2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524